基調講演

小谷　あゆみ

農ジャーナリスト/フリーアナウンサー

【プロフィール】
兵庫県生まれ。高知県立中村高校、関西大学 文学部国文学科卒業
石川テレビ放送アナウンサー時代に、市民農園や棚田オーナーになり、農体験取材したことがきっかけで農業・農村に関心を持つ。
2003 年からフリーアナウンサーとなり東京へ。
CS グリーンチャンネル畜産番組のリポーターとして全国を取材。
畜産農家の思いに触れ、生産と消費の間にある距離をつなぐ架け橋になる使命を抱き、
農業・農村、里山と農ライフを取材テーマにする。
一方、NHK E テレで介護と短歌の番組「介護百人一首」司会を17年間担当。
また、世田谷の体験農園で野菜をつくるアナウンサー「べジアナ」として市民サイドからつくる喜びを発信。
誰もが食の問題の当事者となり、ローカルで連携し、地域にある資源を生かす多面的な「農の力」を取材、発信。
日本農業新聞などに連載。行政、農業関係での講演、司会、コーディネーターなど多数。
全農 YouTube 企画「小谷あゆみの全力リポート」に出演中。ブログ：べジアナの農ライフ研究所
（役職）
・農林水産省、審議会の畜産部会や農村振興整備部会の委員を10年間経験、国産応援フードアクションニッポンの初代 FAN バサダー、農水省・世界農業遺産等 専門家会議委員、独立行政法人 家畜改良センター監事、農政ジャーナリストの会・副会長、棚田学会理事、NPO 国内産米粉促進ネットワーク理事ほか

令和６年度関東ブロック指導農業士研究会 「**地域を生かし、連携する農業**」と題して

　このたびは貴重な機会をありがとうございます。いま、力を入れているのが国連食糧農業機関（FAO）が認定する「世界農業遺産」です。
　関東9県には、埼玉の「武蔵野の落ち葉堆肥農法」、静岡の「茶草場農法」「水わさびの伝統栽培」、山梨の「峡東地域の果樹農業システム」の4つが認定されています。
　気候変動、世界情勢、自然災害などを背景に、国では「みどりの食料システム戦略」が進められ、環境と共生する農業が求められています。
　これからの時代、必要なのはまさに「共生」、「連携」、「つながり」です。 経済成長時代には一定の効果を示した「対立」や「競争」ですが、これからの人口減少時代には、社会的にも環境的にも考えを改める必要があります。農業・農村には本来、地域資源を生かして「自然資本」とし、そこから富を育む力があります。これから社会に歓迎されるサスティナブルな農業と農村はどうあるべきか。全国の事例を交えてお話し、皆さまと考える機会にしたいと思います。